

品質と安全性を大切に！

基盤技術研究所長
松島 良明

近年、エレクトロニクス、自動車、機械、医薬、エネルギーなど多くの分野で次々と新しい技術や製品が開発され、我々に豊かな暮らしを提供すると共に、バブル崩壊後の日本経済の活性化に大きな貢献を果たしてきた。我々の属する化学工業は先端技術分野との関わりが強く、例えばエレクトロニクス分野の薄型テレビ用部材として偏光フィルム、カラーフィルターや有機ELなどの素材を供給しており、今後も新製品・新技術の開発が期待されている。一方、技術の進歩は我々に恩恵ばかりを与えてくれるとは限らない。化学物質に関連した負の事例として、優れた絶縁性や安定性を誇ったPCBの体内摂取による中毒事件や、建材から揮散するVOCによるシックハウス症候群などが挙げられ、機能至上主義の製品開発に警鐘を鳴らしている。

過去の教訓に学ばば、リスク管理を徹底した上で新製品を開発することが、企業存続のための必須条件となる。新製品開発とリスク管理の間には共通性が無いように思われるが、例えばプリント基板製造用の新規レジスト開発にSEM-EPMA、SIMSなど表面分析装置が活用され、一方では小型チャンバー法／高分解能GC-MS法が建材から揮散するVOCの定量と管理を可能にしたことから、近年の評価技術の進歩が両者に対して大きく貢献したことは明らかである。それ故、各企業においては評価技術の重要性を認識し、安全で高品質な製品の開発に活用することが不可欠となっている。当社においてもこれらの評価技術の導入、開発と活用に対する戦略が重要と考えており、基盤技術研究所がその役割を担っている。そして、その主体である分析研究グループが次の目標を持って業務を遂行している。

「分析技術、物性測定、観察技術などの評価技術を高め、それらを駆使して日々発生する課題に対応し、オール東亜の研究開発、工場操業、営業開発に貢献する事」

我々は製品検査業務を除く非定常的な分析業務を担当しており、その目的により業務内容は、(1)問題解決型、(2)問題予測／解決型、(3)開発支援型の3種に大別される。効率的な新製品開発や製造技術開発を展開していくためには、いずれも重要な業務(役割)である。製造や研究の担当者としては製品に関するクレームやトラブルは極力回避したいと努力しているが、まれに予期せぬ事態に直面する事もある。そんな時に最新の分析技術を用いて原因(メカニズム)を解明し、解決策のヒントを与えてくれる部門があれば心強いであろう。問題が発生する前に予測し事前に回避できれば更に業務価値は高い。また、新製品開発の過程では顧客要求性能のクリアが目標となるが、原料メーカーである我々が顧客と全く同じ評価をする事は困難である。そんな時に代替の評価法を一緒に考え、開発促進に寄与する部門があればやはり心強いであろう。「自信」や「信頼」を与えられる部門であること、それが我々の想いであり使命であると言える。

昨今のニュースを振り返ると、有名な企業でも品質の欠陥、不純物の混入、データの捏造などの信じ難い事件が発生し、社会問題として度々報道されている。これは担当事業部門だけの責任で済まされる問題ではない。チェック機能が働かなかった点からすれば、企業の危機管理システム上での問題であるとも言える。会社としての監視強化のためには、定例的に行われている製品検査以外に、コーポレートに属する基盤技術研究所が別の角度から評価することも有効だと考えている。全社員が自社製品の品質に絶対的な自信を持ってはじめて、お客様にも安心して使って頂くことが出来るからである。

これからも評価技術を活用して製品開発や工程改良などを支えていく所存であり、それに裏付けされた「安全」で「高品質」な当社製品が顧客の皆様へ支持され、社会へ幸福をもたらす事を祈念し巻頭の言葉としたい。